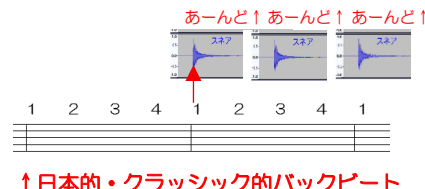
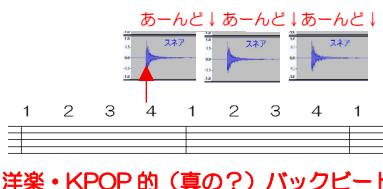
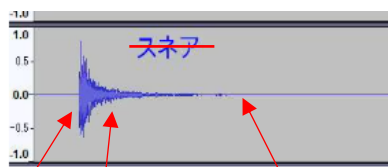


【(真の???) ”バックビート” とは?、の仮説。】～多分、楽器をやらない人でも見分けられる、「洋楽やKPOPのバックビート」の曲かどうか～

●まずは、「自然」の「摂理」から。



★★爆発：伸びる（段階的収束）：無（消える）★★

壁打ちの反発：伸びる：受ける
力キーン！打ったー：伸びたー（フライ）：アウト（バッティング）
蹴る：伸びる：縮む・息継ぎ（平泳ぎ）
発射！（投げた！）：伸びた：キャッチ！（ピッチング、ピッチングマシン）
投げる：伸びる：受ける（球技）

★★始まる：伸びる：終わる★★ ←これが「バックビートの曲かそうでないか？」を見極めるのに一番重要かも？

※特に「始まる」が最重要で「伸びる（反響、サステイン、減衰）」が2番目に重要。

※「伸びる」の部分が無くなると意味が無くなる。

発生：伸びる：消滅（切れる）

開始：伸びる：終了（停止）

高い：伸びる：低い ←これも結構重要かも？上図の「爆発」と「無」の波の高さとも合致しています。

上で手拍子：伸びる（下へ移動しながら開く）：おろしたら上がる

右上から左下へ袈裟切り：伸びながら上がる：左上から右下へ袈裟切り：伸びながら上がる（インフィニティ：ヨコ無限大の記号）

右上から左下へ手拍子：伸びながら上がる：左上から右下へ手拍子：伸びながら上がる

あーんっと吐く：伸びる：吸う（呼吸） ←これも結構重要かも？後述の「あーんど」に結びついたので。吸うのはゆっくりでも速くでも。

以上をヒントに、「お互いに逆のモノ」を集めてみます。色々集めると、「表現」の選択肢を増やすヒントになるかも？

本番：伸びる：準備

スタート：伸びる：エンド

スタート：伸びる：ストップ

Go!：伸びる：Stop!

パァ〜っ！と開く：伸びる：キューっ！と閉じる

弛緩：伸びる：緊張（固まる）

脱力（爆発、パァー）：伸びる：緊張（力を蓄える、貯める。グー、グッ。）

落ちる：伸びる：着地する

落ちる（パァー）：伸びる：頂上へ登る（力を蓄える、貯める。グー、グッ。）

←これらが合っているかはわかりません。
でもこのように複数のイメージを持っていれば、いろんな表現ができそうです。

爆発：伸びる：ぶった切る（J侍ロック、J侍ビート＝激しいJロック）

壁打ちの反発：伸びる：ぶった切る（J侍ロック、J侍ビート＝激しいJロック）

（かーめーはーめー） ハーッ！：伸びる：受ける。消える。（≡ハー：伸びる：かめはめ）

長い髪の毛を後ろから引っ張られる：伸びる：ゆるむ。

=====

●洋楽バックビートか否か？→単に「ノリ」、「流れ」、の違い。そして、それを確かめる方法（仮説）。

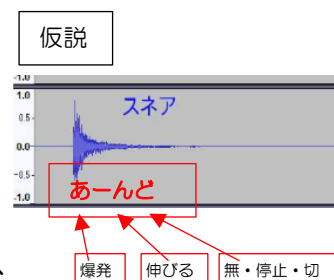
例えばドラムの場合だけに限れば、

2拍・4拍（スネア）、を「強列に」「打つ」でもなければ、

2拍・4拍（スネア）、を「メッチャ タメて」「打つ」でもなければ、

2拍・4拍（スネア）、にリバーブ（余韻・サステイン）がかかっているか・いないか、でもなければ、

2拍・4拍（スネア）、がダウンの動きで、1・3拍目（キック）がアップの動き・・・、でもない。



「どこからビートが始まるのか」とか、「自分がどこからビートを始めて+流れて、どう他のパートとも一緒に流れるのか？」の「違い」だけ。つまり「ノリ」の違いだけ。（打点の位置、など、「点」で考えてしまうと、それはまったく見えなくなる。「流れ」が重要）

それを、「あーんど」と発音して歌いながら、実際に、確かめます。2・4拍目から「あーんど」と繰り返し歌いながら、ボーカル（歌詞）や全パートの「流れ」がその「あーんど」にマッチする＝「気持ちいい!」、「間」が流れる!、落ち着く!、解放される!、リラックスが倍増!、「目の前がパァッと開く感じ!」なら、それは洋楽バックビートです。（↑これが仮説。他の方法もあると思います。）

逆にもし、「1・3拍目」から「あーんど」と繰り返し歌って、それが、ボーカルや全パートの「流れ」としっかりとマッチ（合致）したら、それは日本的なバックビート、になります。ただ、「典型的な」曲しか、判別できません。（でも結構判別できるとは思いますが・・・。KPOPが難しい・・・。） きわどいときは、両方試して、少しでも「解放・リラックス」が濃いほう、など、です。

トップの方々にはよく「リズムの重心」という説明をされますが、「もしかしただですが（仮説）」、その前に、この「あーんど」と歌いながらで、「メロディーや言葉の集中箇所?・メロディーの重心?」から見ていくと、「リズムの重心が見えてくるのかも??」です。

（BTSさんのDynamiteなどは多分洋楽バックビート、EXILEさんのRising Sunや三浦大知さんのEXCITEや(RE)PLAYは、日本バックビート、かなと思います。日本の「歌詞の流れ自体」が俳句的で洋楽バックビートじゃないから?か、日本的バックビートになりやすい気がします。）

●本来（洋楽やKPOPなど）の「正しい(?)」「バックビート」の場合の「ノリ」。の仮説。

「あーんど↓」が前の小節の4拍目から（あるいは現小節の2拍目から）始まる。「ど」が1拍目や3拍目。かつ、自分の「あーんど」の発音と、聴こえてくる「メロディーやノリ」が合致する。

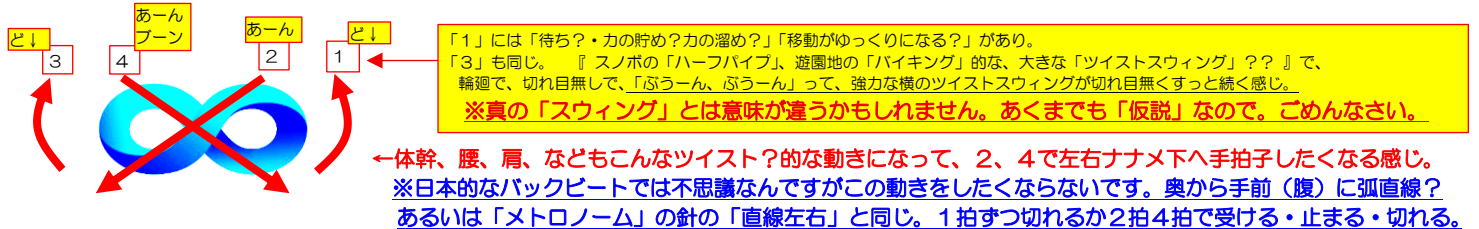
「あーんど」の発音の音程が「高→低」、な感じ。「ど」が「バズドラ的な」低い感じ。レゲエの感じ？

「始まる」というフィーリングというか、「ノリ」というか、が「超」「重要」。

「どこから始まるのか？」が、「超」「重要」。

「あーんど」の歌いを前の小節の4拍目から「開始して＝始めて」、4→1、2→3と、繰り返すと、**歌詞や全パート（全楽器）が「全員一緒に流れる」感じになる。**それらが、自分の「あーんど」の発音きれいに、開放感・解放感、「間」と“流れ”のあるリラックス」とともに、ゆったりと「流れて」ハマル。目の前や耳の中が「パァ〜っ！と開く」のような感覚になる。耳に音がダイレクトに入ってくる（＝まとまりがある。感覚」がきれい。自然。幅の広い高速道路で、5、6台のすべての車が同じ速度で、横一列、並列で一緒に「美しく」走っている「感覚」、「イメージ」、がある。）

あるいは、「無限大の記号(∞)状+遊園地のバイキングの揺れの形」に、「あーん」「あーん」と左右から斜めに爆発しながら落ちて（払って）は、上がって、切れ目なく、ぐるぐる回る感じ。ツイスト？トルネード？



ただ、日本的なバックビートみたいに、「恐ろしいくらい、メッチャ、ハマル。」という感じが少ないかも？空間があるので。でも「1拍3拍での切れ目が無い」ように感じるので「流れる」し、「美しい」、し、「ゆったり」で、「心地よい」。

逆に、「あーんど」歌いを、1拍目から始めて、1→2、3→4、と繰り返すと、「何かのパートが欠けて聴こえたり」、「すべてが”点”でパーカッシブに聴こえたり」、「バラバラで・とっ散らかってて、並列走行していない感じ」になる。「リラックス」も消えます。

体幹（or 腰 or 顔（アゴ））が横方向（左右）に動く。（ボーカロイド先生など）

体幹（or 腰 or 顔（アゴ））が横方向のサークル状に回る。（ボーカロイド先生など）

アゴ（顔）が左右（斜めも少し含む）に1&2&3&4&、的に動く？など。

体幹が縦方向に動いているように見えても、土台として、横方向に、大きく左右動いたりサークル状に回りながらやっている感じ。（多少前後もあるかも）

前の小節の4拍目から始まるので「1、2、3、4」ではなくて、「2（ツー）、3（スリー）、4（フォー）、1（ワン）」とカウントしても割とハマル。

日本的なバックビート（クラシック的？雅楽的。）と「逆転」する感じなので、「2、1、2、1」とカウントしてもハマル感じかも？

某サイトによると、シンコペーションが「拍をまたぐ」をやらない。「拍が変わる（ズれる？）」んだそう。

なので、シンコペーションの頭がそのまま拍のカウント。別に、1小節で1～10まで、拍をいくつ数えてもいい(?)。

シンコペーションで次の小節の頭を感じないようにして、「感じるままに」「2拍4拍から始める気持ちで？」「伸ばす」「切れずに・減衰する」。つまりシンコペーションでは、そうじゃない平常の「1、2、3、4」を「全く」「感じない」ように注意して「伸ばす」、だそうです。この辺は勉強してないので自分には不明です。

※伸びる音のイメージ、サスティンが長いイメージが必ずある。

※リズムを「1、2、3、4」や「1、1、1、1」といった「点」では捉えない。「ああああああー」と「流れ（伸び）」で捉える。

※4拍目で始まって、1拍目で止まる。けど、「普通、1拍目は始まるイメージ」なので、錯覚？が起こって、**なんだか、「終わるはずが終わらなくてまた1から始まっちゃって」、「ぐるぐる回って繋がっていく感じ」をおぼえる。**「なんか長く2拍分使えちゃう？」的な感じ。

※4拍目から始まるからか、1拍目から2拍目までがジャストな感じで、3拍目から4拍目までが、タメが在る感じになる。

※基本、横の動き（左右がサークル）が横無限大記号の動き（そもそもヨコカ！）。または、タテ+横融合（横ベースに縦プラス）。

「ジャズの、シンバルレガートの動き。」が、「まんま」で、「バックビートの動き」な感じ。

1・3拍目はアップの動きで、2・4拍目はダウンの動き。

ただそれも、フレーズや曲の「流れ」が、「1拍目から」始まってしまっていたら、「洋楽バックビートにはならない」です。

1と2が、「逆さ言葉」、のように「逆転」する感覚？

「イエイ（エイ）」と「家」とか、「種」と「ネタ」とか、「僕」と「久保」とか、「ダム」と「無駄」とか。

他のサイトでの説明

・2拍目や4拍目を思いっきり強く枕で叩いたときに、「プレイヤーが」「全員」「居る」。（←上手な表現だと思いました！）

・シンコペーションを入れたくなる。

以上のようなことなので、「日本人は」、ドラムにおける「呼吸法」は、「まずは」、「ゴチャゴチャ難しく考えず」に、

『2拍、4拍で体幹を少し沈ませながら、「あー」とか「はー」とか、「伸ばすような呼吸」をする。1・3拍目でふっと吸うなど。』ということを目標にするといいかもしれません。（※「はー」は、かめはめ「はー」。）

それをしながら叩く練習をすると、バックビートのノリになるかもしれません。キックをアップで劇強にしても問題ないし。

ただ、正直、超難しいです。「あーんど」と言いながらだと、つまり、「あー」に「んど」を付加すると、「更に超難しく」なります。

「色んな事が逆転」するし、「シンコペーション」や16裏のキックなんか、「（日本的に）拍をまたぐ」なんて難し過ぎてムリです。シンコペーションは、例えば1拍半移動の「だーん、だーん、だーん」という部分なら、「あー」「あー」「あー」と呼吸か発声をして、そのままテキトーに「勘で」延ばして、2拍めの「あー始まり」や4拍目の「あー始まり」に「つなぐ」、という「超まんま」で行くほうがいいのかもかもしれません。

●日本の（クラシック的？雅楽的。）なバックビート（＝邦楽、JROCK、JPOP、Jシティポップ）の場合の「ノリ」。の仮説。

「あーんど↑？」が1拍目・3拍目から始まる。「ど」が2拍目や4拍目。

かつ、自分の「あーんど↑？」の発音と、聴こえてくるメロディーやノリが合致する。

「あーんど」の発音の音程が、「あーんど？」みたいな感じで、「高→更に高」、な感じ。

「始まる」というフィーリングというか、「ノリ」というか、が「超」「重要」なのは

洋楽バックビートと同じ。「どこから始まるのか？」が、「超」「重要」なのも洋楽バックビートと同じ。

「あーんど↑？」を1拍目から始めて、1→2、3→4、と繰り返すと、歌詞や全パートが「全員一緒に流れる」感じになる。それらが、自分の「あーんど↑？」の発音と「恐ろしいくらいに」、メッチャ、ハマる。（洋楽のバックビートは、「メッチャ」って感じは無い）

（＝まとまりがある。流れがきれい。自然。幅の広い高速道路で、5、6台のすべての車が同じ速度で並列で一緒に「美しく」走っているイメージ） 目の前が「パァ〜っ」と開くような感覚は「無い」けれど、「揃ってるう」的な感覚。耳にはグハグハに音が来る。

上奥から手前下（腹）へ弧を描くけど、上から見るとストレートの？メトロノーム針のように「均一」、かつ、逐一「切れる」「止まる」動き。ツイストやトルネードっぽくはない。素直で直線。逆に、「あーんど歌い」を（洋楽時と同様に）前の小節の4拍目から「開始して＝始めて」、4→1、2→3と、繰り返すと、「何かのパートが欠けて聴こえたり」、「すべてが”点”でパーカッシブに聴こえたり」、「バラバラで・とっ散らかった、並列走行していない感じ」になる。

体幹（or 腰 or 顔（アゴ））が縦方向（上下）に動く。

体幹（or 腰 or 顔（アゴ））が横方向のサークル状に回らない。固定気味。サークル的な動きも、「タテ割りがまず先にベースであって」、「その後に（そのうえで）」、回る感じ？ アゴ（顔）が左右やナナメに1&2&3&4&、的に動「かない」。縦のみに動く。

2拍目、4拍目で「受ける」イメージがある。俳句の1音を16分音符（ゆっくりのbpm60位）に置き換えたフィーリング。

頭スタート（1拍目スタート）。「受けてしまう」ので、「一旦」「リズムがそこで止まる・切れる」、というイメージがある。

激しいJロックだと、「受ける」というよりも「ぶった切る」という形になる。ただ、「リズムがそこ（2拍、4拍）で止まる・切れる」というイメージは変わらない。

しかし、それが「表現として」「間違っている」とはならないと思います。逆に、「躍動もあり」、「充分に」「アリ」だと思います。

特に、激しい伝統的Jロックなどは、（繰り返しますが）2拍目や4拍目で、「日本刀で」、「ぶった切る」、というイメージがあるので、「サムライ・ロックビート」と呼んでも差し支えないと思います。それはそれで燃えるものがあります。「3種の神器の一つ」とまでは言いませんが、でもそのイメージを受け継ぐ「日本刀」ですから。（逆に、それは外国の方々には理解できないと思います。）

この日本のバックビートは、洋楽のバックビート信者（洋楽BB信者）からは「ニセモノ」の「恥ずかしいビート」と呼ばれます。

まあ、「恥ずかしい」はディスり過ぎだと思いますけど、ただ、ノリは洋楽と比較すると確かに「平坦（2D）」かも？

（※完璧に平坦、ってわけでもないと思うのですが、「ノリが違う」ので、「洋楽BB信者」が「ノリがまったく無くて平坦」と言いたくなる気持ちはわかります。洋楽のバックビートのほうがセクシー要素があって3D的（立体的）です。）

でも、2拍・4拍で「流れが止まる」「流れが切れる」のに、なぜか、日本人には「心地よい」。

でも、2拍・4拍で「流れが止まる」「流れが切れる」のに、なぜか、海外の人でも「心地よい」と感じる人が少なくない。

「Jシティポップ」や「YOASOBIさんやAdoさんなどの音楽（というかボカロP系）」、が世界でも流行ってるから？？あるいは、

俳句1音をbpm60位の16分音符に置き換えたアタマスタートのフィーリングが、日本人の遺伝子に組み込まれているからかも？

そもそも、クラシックも「洋楽的バックビート」ではなくて「1拍・3拍から始まる」ものが少なくないはずなので、それが、「心地よい」という感覚が「無いわけがない」です。

（★★洋楽的なバックビートが好きか嫌いか、だけ。洋楽の演奏が 洋楽的バックビートのノリでやれるか・やれないか、だけ。）

だから「海外の人にも理解できる」と思います。

でなければ、（繰り返しになりますが）「Jシティポップ」や「YOASOBIさんやAdoさんなどの音楽（というかボカロP系）」や、松田聖子さん、などが海外で注目されることはないと思います。

某サイトによると、シンコペーションが「拍をまたぐ」を「やる」。「拍が変わらない（ズレない？）」「拍をまたいで普通にカウント。

つまりシンコペーションの「最中」に、そうじゃない時の平常の「1、2、3、4」、を「強烈に」感じていてしまう。

なので、洋楽やKPOPのシンコペーションのように「1小節で1～10まで、いくつ拍を数えてもいい（？）」みたいなことは「あり得ない」？。この辺は勉強してないので自分には不明です。

※伸びる音のイメージ、サスティンが長いイメージが必ずある、というのは洋楽と同じ。

※リズムを「1、2、3、4」や「1、1、1、1」といった「点」では捉えない。「あああああああー」と「流れ（伸び）」で捉える、のも洋楽と同じ。でも、日本のは「1、1、1、1」とカウントしても違和感が無い場合が多い。特に最近のJPOPなど。

※1・3拍目で始まって、伸びることは伸びるけど、2・4拍目で止まる。

2・4拍目で「腹や胸、あるいは肩や腰で受ける（止まる）」イメージがある。

※洋楽のように1拍目で終わらないので、きっちり、2・4拍目で「終わる」ので、「ぐるぐる回って繋がっていく感じ」は「無い」。よってどちらかというと「激しさはあったとしても」「平坦」な「ノリ」になる。特にボカロ出現以降のJPOPや一部のJROCK。

同時に、2・4で「受ける・切れる」ので「なんか長く2拍分使えちゃう？」的な感覚は無くて、少し短い感じ。

※1拍目から始まるからか、1拍目から2拍目までがタメる感じになって、3拍目から4拍目までが、ジャストな感じになることが多い気がする。洋楽やKPOPの場合と逆。

※基本、縦の動き。縦のみ。横や前後の動きを加えることもできるけれど、「タテがベース」になりがち？？これも洋楽やKPOPの場合と逆な感覚？ 洋楽やKPOPの場合は「ベースがヨコ」で、そこにタテがのっかる感じ？（もしタテが融合されるとすれば・・・、ですが。）

※エグザイルさん系や久保田利伸さん、三浦大知君、などの「ダンス系」の曲でも、こちらのノリ。（それは僕でも明確にわかる。）

逆にKPOPのダンス系は洋楽バックビートな感じ。（だそうです。自分には明らかにそう分かる曲と、微妙で分かりづらい曲があります。）

ジャズの、本来のシンバルレガートの動き「じゃない」、です。

1拍目も、2拍目も、3拍目も、4拍目も「全部ダウンの動き」か、もしくは、1・3拍目がダウンの動きで、2・4拍目がアップの動き。「全拍」「ダウンの動きで」、あるいは、「1・3拍目をダウンの動きで」シンバルレガートするイメージです。ただし、その動きを曲の中のほとんどでやると（体幹を含めず「手の動きだけ」でも）、全くジャズにならないので、ご法度とされています。

他のサイトでの説明

- ・2拍目や4拍目を思いっきり強く枕で叩いたときに、「プレイヤーが」「全員」「居ない」。（←上手な表現だと思いました！）
- ・シンコペーションを入れたくならない。

●もう少し言うと（「メロディーの集中箇所？言葉の集中箇所？メロディーの重心？」について）

洋楽やダンス系 KPOP は、

4拍目から次の小節の1拍目の間、2拍目と3拍目の間、に、全パートのメロディがある感じの構成で、16分や8分のウラのリズムの存在感（たっぷり感）も（音が鳴ってなくても）しっかりあって、それらが全て噛み合って、「きれいに流れる感じ」で、逆に1拍目から2拍目の間、3拍目と4拍目の間、には、音が無いが、伸ばしているだけか、パーカッションな音ばかり（流れない）になる。

JPOP や JROCK、Jダンス系 POP、演歌、歌謡曲などは、その全く逆。俳句の1音を bpm60 位の16分音符にした時の流れに似てる。

1拍目から2拍目の間、3拍目と4拍目の間、に、全パートのメロディがある感じの構成で、16分や8分のウラのリズムは（逆に音が鳴ってても）あまり存在感（たっぷり感）が「無い」感じだが、でもそれらが全て噛み合って、「きれいに流れる感じ」で、逆に4拍目から次の1拍目の間、2拍目と3拍目の間、には、音が無いが、伸ばしているだけか、パーカッションな音ばかり（流れない）になる。

●昔からよく言われていること。（真偽のほどはわかりませんが）

※よく言われるのは、

農耕では、鍬（クワ）を振り下ろす「上から下」のリズム。（日本）

狩猟では、馬が地面をけり上げる「下から上」のリズム。（イギリス、アメリカ、その他）です。

推測しますに、

「日本人は農耕民族だから、1でクワを（ダウンで）地面にぶっ挿して、2で土を（アップで）掘り起こして慣らす、が基本になるので、1から始まる。」

となり、

「欧米人は狩猟民族で、馬によく乗るから、馬のラッパカ・ラッパカがリズムの基本??で、1が馬の蹴り上げ（アップ＝ジャンプ）で、2が馬の着地（ダウン）。でも、ダウンが2（「パ」の位置）なので、バカラッど2から始まる感覚になる？」となるのかも？

詳しいことは不明ですけど・・・。

●参考：馬の走りのリズム

(O1) 駢歩（かけあし）＝準最速

1拍としての6連符、的。というより、高速の「表1拍・裏1拍の合計2拍」と考えるほうが良いかも？

2拍として捉えると、1拍目＝馬の背中が上がる、2拍目＝下がる、になる。

パカラランッ パカラランッ パカラランッ パカラランッ

<https://kotobank.jp/word/%E9%A7%86%E8%B6%B3-461003#E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89>

「サラブレッドの走り3【駢歩】」

<https://www.youtube.com/watch?v=6-qJdLnFgKI>

※背中が上がるところを「ワン」と仮定しています。

ラ：右足で蹴って上がっているときに背中が上がる。

ン：蹴りつつ地面から離れる？

ッ：そのまま宙に浮かぶ。

パ：後ろ左足で蹴る。ここが8分の裏。ここで背中が下がる。2拍で捉えるならここが2拍目。

力：後ろ右足で蹴る

ラ：前左足で蹴る

(O2) 襲歩（しゅうほ）＝最速

1拍としての4連符、的。こちらも高速の「表1拍・裏1拍の合計2拍」と考えるほうが良いかも？

こちらも2拍として捉えると、1拍目＝馬の背中が上がる、2拍目＝下がる、になる。

バカラッ バカラッ バカラッ バカラッ

<https://kotobank.jp/word/%E8%A5%B2%E6%AD%A9-527635>

足の突き方は、実は駢歩と同じ順番ですが、後ろ足がフラムのようにほぼ同時に聴こえてきます。

なので、「バカラッ」という感じに聞こえてきます。

「【疾走】サラブレッドが走る！その4「襲歩」」

<https://www.youtube.com/watch?v=F4G9LJ8O2yw>

※背中が上がるところを「ワン」と仮定しています。

ワン（ラ）：右足で蹴って上がっているときに背中が上がる。

イ：（ッ）宙に浮かぶ。

エ：（パ）後ろ足は、フラム状態で8分の裏的な位置。ここで背中が下がる。2拍で捉えるならここが2拍目。

右が少し先（というか左がほんの少しあと）。

後ろ足はほぼ同時だけど、駢歩のバカララン！の6連符のときと、足運び自体は変わらない。

ダ：（力）左足で蹴る。